

全体会午後の部Ⅰ

司会者(ao・ag) それでは定刻がきたので着席してください。ただ今より、全体会午後の部Ⅰを行いたいと思います。

午後の部Ⅰの司会を担当させていただきます松茂中学校2年ao、松茂中学校2年apです。よろしくお願ひします。



午後の部は前半のⅠと後半のⅡの2部構成になっています。最初に意見発表を3本していただき、その内容を通して、みんなで人権について語り合いたいと思いますので、皆さんどうぞご協力よろしくお願ひします。

まずは前半1本めの意見発表です。瀬戸中学校2年ajさん「無関心が奪うもの」です。よろしくお願ひします。

「無関心が奪うもの」

瀬戸中学校2年 aj

皆さんは「マッチ売りの少女」のお話は知っていますか。ある一人の少女が、雪の降る町で生活のためにマッチを売っているのですが、まったく売れません。寒さをしのごうとマッチの火をともします。マッチを使い切ってしまった彼女は、帰らぬ人となってしまうという悲しい物語です。

中学生になって読んでみると、小さかった頃とは違って、いろいろと考えさせられることがありました。「本当の幸せとは何か」「少女が亡くなってしまったのは、寒さや飢えだけが原因なのだろうか」。

私は、誰も彼女を助けようとしなかったり、気付かないふりをしたり、気にもとめなかったりした「無関心」が、少女の命を奪ってしまったのかもしれませんと思いました。



私たちの住む世界には、現在も不平等なことや貧困問題が多く存在しています。「無関心」によって、子どもの人権が守られていない問題がたくさんあります。これから私たちには、その問題に対してどう向き合い、どう改善していくべきかを考えていかなければいけないと思います。

「無関心でいることは、人を傷つける行為だ」ということに気付きました。でも私たちは、知らない間にそんなつもりはなくとも差別的な発言をしたり、偏見をもつてしまったりする可能性があります。だから、その可能性が自分にあることを常に意識して行動していかなければなりません。また、困っている人に気付き、声をかけたり行動に移したりすることは勇気がいりますが、それが人を救うことにつながり、助け合う社会をつくる第一歩だと思います。

私は、これからも人権や思いやりについて学習を重ねていこうと思います。みんなが安心して暮らせる社会の実現に向けて一緒に頑張りましょう。

ご清聴ありがとうございました。

司会者(ao・ap) ありがとうございました。どうぞ元の席に戻ってください。

続いて、前半2本めの意見発表です。板野中学校3年afさん「性の多様性～LGBTQ+から考える～」です。よろしくお願ひします。

「性の多様性～LGBTQ+から考える～」

板野中学校3年 af

皆さん、性の多様性、LGBTQ+について知っていますか。性には、「体の性」「心の性」「好きになる性」「表現する性」の4つの要素があります。LGBTQ+とは、それらの要素の組み合わせの少数者、性的マイノリティを表す総称の一つです。

私は、人権学習で性の多様性について知り、その中で、少数者であるがゆえに世間から受け入れられない人々の苦しさや、心の傷について学習しました。

それらの学習から、私は自分の体験について考えてみることにしました。



私は幼少期、スカートが好きでよくはいていました。しかし小学校に入り、かわいい格好が好きでも、スカートにはあまり足を通さなくなりました。それは、テレビに出ていた女優さんが、ズボンをはき、格好よく着こなしているのを見て、スカートよりもズボンをはきたいと思うようになったからです。早速母と一緒に服屋に行き、新しいズボンを買いました。ズボンをはくと、スカートをはいていた頃よりも動きやすく、何より安心感がありました。

小学校高学年になったとき、父からある言葉をかけられます。「女の子なんだから、ズボンばかりではなく、たまにはスカートをはいてみてもいいんじゃない? そのほうが女の子らしいよ」と。

それも父の愛情表現として受け取り、一つの意見として捉えています。しかし私は、「好きなものを着ている自分」が自分らしいと思って

います。その後、一度スカートをはきましたが、少し恥ずかしさがあったため、やはり自分はパンツスタイルがいいなと感じました。私のように「女の子」だけどスカートは苦手という人もいるのではないかなと思います。自分らしくいるためには、周りの意見も大切にしながら、自分の意見も主張することが必要だと思いました。

このように、「女の子だから」「男の子なのに」といった固定された概念をもち、相手をわかっているようなことを言って、いつの間にか相手の心に傷をつけているということは、少なくないと思いました。

この経験と性の多様性の学習により、周りの人に自分の個性についてわかってもらえないなど、人の目を気にして好きな格好ができなかったりすることは、とても苦しいことだと改めて感じました。そして自分らしく生きたいのに、周りの人に「性」を決められたり、否定されたりすることが、どれほどつらいことなのかということにも気づかされました。

性の多様性については、世界中の社会にまだまだたくさんの課題があります。それらを乗り越えるためには、お互いの個性を知り、それを受け入れ、受け止め、寄り添い合わなければなりません。

周りには、好きなこと、嫌いなことが全く一緒という人はなかなかいません。人は、自分と相手の共通点を見つけて、「この子とは仲良くなれるかも」と、友達になるきっかけにすることがよくあると思います。しかし、友達になるきっかけが、お互いの共通点ではなく、相手との異なる「好きなこと」でも良いのではないかでしょうか。私は、お互いの違いを知り、認め合うことで仲良くなることもできると思うのです。

人には、みんなそれぞれ違った個性があります。そして、自分の個性は自分が一番よくわかっています。私は自分らしく生きていくために、自分が自分の一番の味方であり続けたいと思つ

ています。自分で自分を否定することのない生き方をしていきたいです。

全ての人が自分らしく生きていくためには、自分の個性、ありのままの自分を受け入れることが大切です。そして、それと同じくらい、ありのままの相手を受け入れることが大切なのだと思います。お互いがお互いを尊重し、認め合う、温かい世界にしていきたいです。

ご清聴ありがとうございました。

司会者(ap) ありがとうございました。どうぞ元の席に戻ってください。

続いて、前半3本めの意見発表です。松茂中学校3年 al さん「語り続ける」です。よろしくお願ひします。

「語り続ける」

松茂中学校3年 al

「私たちは、高齢になり、語り続けられる人が少なくなっています。だから、これから生徒の皆さんが、今話したことを語り続けてほしい」

私は、去年の夏、人権こども塾の一泊研修で、岡山県にあるハンセン病の資料館、長島愛生園と邑久光明園を訪れた。これは、そのときに元ハンセン病患者がおっしゃった、とても印象的な言葉である。

ハンセン病とは、「らい菌」という細菌が起こす感染症の一つである。「らい菌」は感染力が弱く、ハンセン病は非常にうつりにくい病気である。しかし、以前の日本では、1931年に『らい予防法』が制定され、ハンセン病患者の強制隔離が徹底された。そして、『ハンセン病は、恐ろしい病気だ』といった情報が広まり、多くの感染者が差別を受けた。

私は、ハンセン病について、施設を訪れるまであまり知らなかった。なんとなく聞いたことはあるけれど、内容はあまり分からなかった。そのため、「完治しても療養所からは出られない。身体や衣服を消毒させられる。結婚しても、

子どもを産むことは許されない。死んでも故郷の墓に埋葬してもらえない」、これらの言葉を聞いたとき、とても衝撃的だった。どれほど過酷な生活だったのか。聞けば聞くほど、悲しみと怒りが湧いてきた。誤った知識によって差別が多くの人を苦しめたという事実に胸が痛んだ。



私は、ハンセン病について学んだ中で気になったことがある。それは、本名が名乗れないということだ。ハンセン病患者は、療養所に入ると同時に自分の名前を変えたそうだ。それは、本名がばれてしまったら、家族にまで差別や偏見を受ける可能性があり、迷惑がかかるという理由からだ。しかし、なぜ何の罪もないハンセン病患者が、そのようなことをしなければならないのか。ハンセン病になっただけで、一人一人の大切な名前が、奪われなければいけないのか。家族のために、自分の存在を消さなければいけないのか。私は、おかしいと感じた。

また、元ハンセン病患者の忘れられない言葉がある。それは、「コロナでもハンセン病と似たことが起こっている。隔離などで、同じ扱いを受けていて、繰り返されている。このようなことは、二度と起きて欲しくない」といった言葉だ。私たち生徒に、強く訴えてくれた。私たちは、歴史を繰り返さないために人権学習をするのだと思った。

ハンセン病は、誤った知識から差別や偏見に繋がってしまった。だから、二度とこのようなことを繰り返さないために、私たちはまず、ハンセン病についてもっと知ることが大切だと思う。元ハンセン病患者の平均年齢は、90歳近くになっている。愛生園では、二人しか語る人は

いない。そのため、今のうちに私たちが話を聞き、「語り続けること」、それが私たちの使命だと考えた。私は、作文の冒頭の言葉を胸に、ハンセン病についてもっと理解を深め、「語り続け」たい。

ご清聴ありがとうございました。

司会者(ao・ap) ありがとうございました。どうぞ元の席に戻ってください。

それではこれから、意見発表を通しての討議にうつりたいと思います。発表についての感想や意見交換、参会者の皆さんへの思いを語っていただければと思います。

マイク係として、松茂中学校3年 am さん、松茂中学校3年 an さんの2人がフロアをまわります。

なお記録の関係上、発表者は学校名、学年、名前を言ってから発表してください。それではよろしくお願ひします。

板野中学校3年(ae) ちょっと語彙力とかあまりないのでうまく言えるかどうかわからないんですけど。alさんの「語り続ける」で振り返ってみたんですけど。人権(中学生集会)にずっと来てて。中1から来てたんですけど。経験者とかそういう話を自分が行って聞くだけで、あまり家族とか妹とかに伝えたことなかったなって、今ふと思ったので。たぶん語り続けないと、妹も結構、まだ小3なんですけど、まだたぶん人権とかあまり分かってない状況なので。今からでもコツコツ、自分が分かるところからちゃんと教えていって、社会とか中学校で、



ちゃんといじめとかいじめる方向に行かないように、守れるみたいな感じの方向に妹とかを、妹を支えていけたらなって思いました。以上です。

瀬戸中学校3年(ai) ボクは2番めの af さんかな、afさんのLGBTQとかは、ボクあんまり知らないんですけど、お父さんの「スカートの方がいい。スカートの方が女性らしさがある」みたいなのがあったじゃないですか。そこをボクは何回も出てきた、自分らしさっていう言葉が心に留まって、考えたんですよ。自分らしさって何かなって。ちょっと考えていたら、「自分なりの」が答えになったんですよ。「自分なりの」かっこいいが自分らしさであって、ボクが思っているかっこいいは、この発表しているボクも、自分なりのかっこいいんですよ。が、自分らしさにつながって、スカートよりもパンツとか、そこら辺も自分らしさ、自分なりなのかなと思いました。ありがとうございました。



小豆島中学校3年(bi) 私も同じで、2番めのLGBTQ+についてなんんですけど。私も実際中学3年の途中まではスカートでいました。ずっとズボンがよかったですけど、ズボンがいいというのをなかなか友達とか親とかに相談できなくてスカートでいたんですけど。カミングアウトできなかった理由が、小学校の時に1回友達にカミングアウトしたときに、友達に批判されたんですよ。気持ち悪いって言われたり、無視されたり、いろんな友達に距離を置かれたりして。そ

れがトラウマで言えなかつたんですけど。中学生になって、LGBTQ+についての学習が多くなつたときにみんなの意識が高まつて、自分もLGBTQや性別に対することとかについて言えるようになつたので、少しでもその悩みを持っている人が安心して言えるような学校づくりとか、社会になればいいなって私も思つています。



松茂中学校2年(ap) 1本めの「無関心が奪うもの」について考えてたんですけど。実は幼稚園くらいの頃に幼なじみがいたんですよね。女の子が。その子もちょっといじめ受けてて。そのまま小6まで一緒だったんですけど、あまり学校来てなくて。中1になってクラス一緒にいいなって思つたら、いなかつたんですよね。学校に。不安になつて夏休みに家に誘いに行つたら、いなくなつてました。ずっと差別され続けて、無関心が奪うものってそういうこと。無関心でこうなつたんかなつて、すごく悔しかつたです。

徳島科学技術高校2年(bu) ちょっと言葉つたないこともあると思いますが、あたたかい目で見てくれたらうれしいです。2番めと3番めの作文にも共通するところがあると思うんですけど。自分らしさだったり、LGBTQ+だったり、そういうカミングアウトをして、カミングアウトした結果、自分が差別されたり、相手から受け入れられなかつたりみたいな話が、今あつたと思うんです。時代によつていろんな差別があつたわ



けなんんですけど、その根本という自體が変わつないと思うんです。根本というのが、自分と違うものを排除する、みたいなんが根本だと思うんですよ。差別をなくそうとすることは大事だと思います。でも、正直ボク、あきらめもあるんです。なぜなら、この世の中にはいろんな人がいるわけです。正直者もおつたり嘘つきもおつたり。臆病も勇敢な人もいます。これ全部ひっくるめて個性です。でもこんなにいろんな人がいるのに、誰一人同じ人はいません。それは、争いごとは絶えないとボクは思います。でも自分からして、この人あんまり自分と合わんなどと思っても、そこで突っぱねるのではなく、突っぱねて相手に対して対立や不信感を抱くのではなく、極力お互い理解しようと努力して、認め合うことを努力することが大事なんだと思います。以上です。

板野中学校3年(ac) 2番めのafさんの話を聞いて、自分はもっと自分らしさを大切にしようと思いました。私が小5、6年生ぐらいのときに、1回私のおばあちゃんに、女の子なんだからもうちょっと女の子らしくしなさい的なことを言われて、私すごいショックだったんですよ。確かにスカートよりも私、ズボンが好きだし、ちょっとと言動もどちらかというと女の子よりも男の子よりで、男の子の方と遊ぶ方が好きだし。ゲームとかマンガとかも大好きだしあみたいな感じで。それで、おばあちゃんがたぶんちょっと不安になつちゃつたんですよ。こ

の子このままで大丈夫なのかなって。それで私のことを思って、きっと言ってくれたと思うんですけど。それが私とても嫌で。その後小学校のときにちょうど LGBTQ+のことを学んで、女の子らしく男の子らしくということはこういうことなんかなって理解して。それからは、おばあちゃんの前では、今よりも少し女の子らしくいたんですけど。中1、中2ぐらいのときにさらに小学校のときよりも LGBTQ+について強く学んで。このままじゃおばあちゃんが間違った知識、意見をもったまま生活しちゃうんじゃないかなと思って。それからも最初1回言われたときから何回も、何回か女の子らしく女の子らしくって言われたんですけど、学んでから次、もう1回女の子らしくって言われたときに、それは差別発言になるからよくないよって、思い切って言ったんですよ。そしたら私のおばあちゃんは、ちゃんと自分の間違いを認めてくれて、私の前で女の子らしく男の子らしくっていうこと言わなくなりました。それが私はとてもうれしくて。今までちょっと嫌だなって思ってきた発言が、私のたった一言でこんなにもなくなるのだなっていうことが分かって、私もずっと今も、自分らしくいられてるかなと思います。なので、これからも自分の好きとか、個性とかを大切にしながら、周りの人とそういうことを共有できたらなと思いました。以上です。ありがとうございました。



徳島科学技術高校3年(bt) 今日は、受験期なんんですけど、おさぼりということで来させ

ていただきました。実はボクもこここのOBをさせてもらって、お知り合いの方々からは、長話のbtと言えばこの顔が出てくるというので、周知されていると思いますので、ちょっと今日は巻きでしゃべりたいなと思います。どっち向いてしゃべったらいいか分からんのやけど、自分の話をします。

ボクは水族館が好きです。科技高の海洋学科にいるんですけど、水族館で働いたり、あるいは水族館を造ったりするっていうのが私の目標なんです。なんだけれども、やっぱり3年生までやってきて思うことがいっぱいあるんですよ。特に思うのは、やっぱりね、がんばるのって怖いんですよ。たとえばボクの場合はですけど、今までなかったもの、水族館を造るっていうことをやるもんですから、もう何も見えん真っ暗な暗闇を突き進むような状態。先が見えない、分からぬ、どうなるかも分からぬ、ああ怖い。これをミスったら、もしかしたら入試に影響が、みたいなことにもなってくるかも。ああ怖い、めちゃくちゃ怖い。しかも、ただただ惰性で続けるわけじゃないから、いろんな人と衝突もするし、辛いこともいっぱいあるし、生き物を扱うんで、生き物死なせちゃったりもする。辛い、苦しい、怖い。なんだけれども、結局そうなったときって、みんなが見通せないから、自分を信じて進むしかない。自分のありのまま、自分を大好きなまま進んで行くしかない。めっちゃ勇気がいる、超力がいる。そんなことをボクはこの3年間でやって来て、やって来たつもりでいて。しかもね、人間って一人で生きられないんですよ。うまいことできでいて。ホントね、ボクが弱すぎるだけかもしれないんですけど、いろんな人に話を聞いてもらったり、あるいは相談をしてもらったり、しなければ今のボクはここにいない。すごいいろんな人に助けてもらって、支えてもらって、あるいは

教えてもらってここまで来たという現状なんで、一人では生きられない。じゃあどうするべきか。誰かに关心をもつしかない。もってもらう必要がある。そのために、その2つをかなえるために、ボクがここで学んだことをずっとやって来ます。そしてこの間も科技高で、30分間900人の生徒を前にしゃべり倒してきました。そう。ボクがやっていることは、しゃべることです。そ



う、語り続けることと一緒にです。おしゃべりです。おしゃべり大好き。こうやって、おしゃべりするのが大好きなんです。でも、そうすることによって誰かに覚えてもらえるかもしれない。誰かに助けてもらえるかもしれない。もっと言えば、自分が誰かをサポートできるかもしれない。でしょ。それがボク、大好きなんです。しかもそうして来ているから、今のボクはいろんな人に支えられて、うれしくも大学受験というところの瀬戸際まで来ることができて。いや、おしゃべりってすごいんですよ。それとね、おしゃべりすると、自分のこと分かるようになるんですよ。結構おしゃべりする方この中にいらっしゃるって思うんですけど。おしゃべりすると、案外自分の思ってたことが口に出てたりしません？後で聞き直したり、友達から感想聞いたりすると、「あれっ？俺、こんなこと思ってたっけ？」とか、「あれっ？こんなこと考えてたっけ？ボク、めっちゃ格好いい」みたいな。ちょっとうれしくなることがあって。逆に、「こんなとこあったなボク、よくないよくない」とか反省できることがあって。おしゃべりって

本当にすごいんです。だから、この話を3つ、話を聞かせていただいて思うのは、おしゃべりしようということです。おしゃべりしましょう、皆さん！気負わず軽く、そして、そこからつながる人脈とかを大事にしていけると、私はいいんじゃないかなというような人生を、歩んで来ます。そういうお話です。

城南高校1年(br) ボクもLGBTQのことについて話していこうと思います。ボクの友達にはゲイの子とトランスジェンダーの子がいます。どっちもホンマにオープンな状態で、自分はゲイだよとか、トランスジェンダーだよとかカミングアウトできるような、自分をちゃんともっとる人間で。やっぱり隠しとっても意味がない。逆にゲイだったりトランスジェンダーだったりしたことを自分の個性だと思って、受け入れてもらうために他人にもしっかり話がしたいっていうのがどっちも共通の話題で。やっぱりゲイだからトランスジェンダーだからといって特別扱いされたくないっていうのが本心だったんですよ。その子達からしたら。なので自分の行動は、その子にとって大丈夫なのかとか、周りはそのことについて配慮しているのかって。固定概念がよくない方



向だったり、いい方向だつたらいいんですけど、よくない方向だつたら無意識のうちにやっぱ傷つけてしまったり、悪い方向になってしまったりするのを防ぐために、やっぱ人権学習だと思うので。しっかりここで学んだことを他のまわりの人にも伝えて

いけるようにがんばりたいです。

徳島北高校1年(bv) 前半のところで話そうかなって思ったんですけど話せなくて、じゃあ今、話しちゃおうって思っているんですけど。別に bs さんとバトる気はないんですけど、私結構死刑制度についてはあってもいいんじゃないかなって思ってて。私あまりニュースとか見たりせんんですけど、それこそ人権子ども塾とかで狭山事件とか昔のすごい事件知るとか、お母さんからたまに事件とか殺人事件とかを聞いて、ああこんな事件あったんやなって知るぐらいなんですけど。結構刑事ドラマとかそういうアニメとかを見るのが好きで。見て、被害者の人のこと考えたりするんですけど。やっぱ殺人っていけんことじゃないですか。いいことなわけないし。いつも考えるのが、皆さん知っていますかね。昔、女子高生がコンクリートの中に埋められたみたいな事件ありましたよね。私これを聞いて、ホンマに聞いたのが中1ぐらい小6ぐらいなんですけど、お母さんから聞いて、これがずっと頭の中に入っとって。そんな詳しくは覚えてないけど、断片的にずっと頭の中にはっきりついているんですけど。これを聞くたびにすごいむごいなって思うんですよね。それこそ女子高生が亡くなって、それを言い方悪いけど、ちょっと殺しちゃったみたいな人がおるんが、ほんまに被害者の家族からしたらたまたもんじゃないなって思うんです。私やつたらほんまにもう、こう行くぐらい。吉成先生も言ってましたけど、人が殺したら犯罪者になっちゃうけど、国が殺したらそうじゃない。だったら、自分の娘が殺されたのに、自分が殺して犯罪者になるよりは国が殺して、犯罪にならん国が殺してくれた方が、まだ復讐とまではいかんけど、まだ納得もせんのやろうけど、まだちょっと自分の中で心の区切りにはな

るんじゃないかなって。小6のその話を聞いたときからずっと思ってて。それこそ狭山事件みたいにえん罪事件とかが生まれちゃうから、死刑執行、死刑制度とかは、あっちゃアカンのやろうなって思うんやけど。けど、ほんまに亡くなっちゃった被害



者の家族からしたら、自分が復讐、こうやってしちゃうわけいかんし。だったら国にやってもらうしかないんじゃないかなって思うんです。これはいろんな人の、死刑はよくないぞみたいな、死刑制度を廃止すべきだ、死刑制度がある国は少なくなってきたんやと思っても、だから何って、自己の中で思っちゃって、ずっと。それでも被害者は浮かばれんだろうなみたいな。ずっと平和に生きとったのに、急になんか、どんな動機があるのかも知れんけど、ずっとこれ、おかしいんじゃないかなって思うんです。刑事ドラマとかで見よったりしても、だったら社会的にや(殺)っちゃおうみたいな。社会的にやったとしても亡くなったり帰って来うへんしなって思っちゃうから、たぶん私は、死刑制度よくないぞよくないぞっていう意見聞いても、自分の中では死刑制度はあった方が、被害者の家族の人にもいいんだろうなってずっと思っちゃうんですよね。別に自分がどうこうするつもりもないんで、日本がこれから死刑制度をやめますってなったら、ああそれもそうかって。別に納得はせんけど受け入れるようにします。bs が、死刑制度はよくないとか、執行猶予とかもどうじやらこうじやらみたいな、ケンカを売ってるつもりはな

い、ホンマに。ケンカ売ってるつもりはまったくもってない。自分の意見なんやけど。何か更正が大事みたいなんを聞いてほんまに。それで確かに更正することによって、「自分は間違っていました、次からはこんなことしません」って、「皆さん、こんなことやめましょう」みたいに、これはいけないことなんだって広めるのも大事やと思うけど、私はやっぱり被害者的人に寄り添うべきなんじやないかなって思います。

土庄中学校2年(ay) さっきの意見にちょっと自分が思うことがあって。殺害された被害者の人って、たぶんその人にやり返したいんじやなくて、被害者的人にどちらかというと戻って来てほしいっていう気持ちの方が大きいと思つとつて。戻って来んのは、絶対戻って来んて思うけど。加害者に罪が被さらん状態でや(殺)れるならやりたいって気持ちではないなって思ったんで、それだけ発表しました。

土庄中学校2年(az) 話の流れが変わっちゃうんですけど、LGBTQについて話したくて。さっきの話でもあったと思うんですけど、親は自分たちのことを思つて、いじめられるんじゃないかなとかと思って、スカートはいた方がいいんじゃないかなとか心配してくれて、言つてゐるケースが多いと思つていて。自分のお母さんも、小豆島の人権語り合おうみたいな会で、カミングアウトした人がいたんだよっていうことを知つたときに、何でみんなの前でカミングアウト



とかをしなきやいけないのかと言ってて。それ私、言われたときに反論できなくて。確かに何で言わなきやいけないんだろうと思って。でも、ちょっと考えてみたらそれって、カミングアウトしてからいじめられるっていうケースが今でも続いているからだと思ってて。だから、このカミングアウトしたらいじめられるというのをなくしていかなければならぬなと思いました。

小豆島中学校3年(bf) 話が変わるんですけど、平和について話したいと思います。去年の3月ぐらいに自分の家族といとこ家族で広島の方に行きました。広島では宮島や原爆資料館などを観光しました。その中で特に印象に残つてゐるのが原爆資料館で、たくさんの外国人の方がいらっしゃいました。その中にもアメリカ人がとても多く、原爆についてとても勉強されていました。原爆ドームの近くで写真を撮つたのですが、写真を撮つていると、後ろから外国人の方が一緒に、急に写真を撮つてくださいました。その行動を見て、日本と海外がどんどんつながつていくことで平和が生まれ、すばらしい社会になると思いました。



小豆島中学校2年(bo) 2番めの作文でちょっと細かいところだったんですけど、お父さんにスカートの方が女の子らしいよって言つたところで。それを愛情だと、心の整理をつけて受け止められたってところがすごいと思つとつて。差別的な発言とかはもちろんダメだけど、そういう人もいるんだなって、ちゃんと自分と区別をつけて考え

られてるっていうのがすごくいいと思いました。

小豆島中学校3年(bj) ボクは0歳数ヶ月くらいのときに意識不明になって、危険な状態だったんですけど、親がそれに気づいて慌てていると、いったん普通の状態になっていて、保育園に向かっているときに、またその症状が出て。親は慌てて、いったん保育園まで行って保育園の先生と相談したんですけど、その保育園の先生も協力してくれて。自分小豆島なんんですけど、高松の方の大きい病院までヘリコプターで連れて行ってくれて、あと1時間で亡くなっていたところを助けてくれました。そういうって他人事ではなく自分事にして助けてくれる人にありがとうございます。



小豆島中学校2年(bm) ボクも2番めのLGBTQの話を聞いて、小学校のころに友達と髪留めを付けて登校したら教頭先生に怒られて、男の子がなんでそんな女の子みたいなもんつけとんやと言われて、髪留めごと引きちぎられて、職員室に連れて行かれて、友達とちょっと怒られたんですけど。今の話を聞いて、それはやっぱホンマに間違つとるんやなあとか思うことができました。

板野中学校3年(ag) 私はafさんの話を聞いて、女性らしくとか男性らしくとかはよくないと思う人もいると思うけど、1つの意見としてとらえて、自分なりのありのままの姿でいられるようにしたいし、相手のこ

とも尊重していけたらいいと思いました。



瀬戸中学校3年(ah) 私はちょっと話がそれんですけど、私の家族について話したいと思います。私の家族はお父さん、お母さん、兄が2人いて私の、5人家族なんんですけど。一番上の兄が22歳かな、今が。(その兄が)障がいをもっていて、知的障がいという障がいをもっていて、ちゃんと会話ができないかったり、ちゃんと勉強とか学校に通えなかったりして。今は特別支援施設に通っていて。私、小学校低学年ぐらいかな、まではその兄が苦手で。ちゃんとまともに話せないし、何か変なこと聞いてくるしで、ちょっと苦手だったんですけど。テレビとかで障がい者のことについて話している番組があって、その番組で、兄が該当する話をしていて、知的障がいとか、そういう障がいについて話していて。その小学校低学年までは、兄が知的障がいっていうことを知らなくて、障がいという存在のことも全然知らなくて。そのテレビ見たときに、そんな障がいとかあるんやなあって思って。そこから兄に対しての態度とかを変えたりして。今は苦手とか、そういう感情はないんですけど、まだちょっと不便なところはあるなあと思ってて、兄と会話しているときに。どうやったらそういう障がい者の差別とかがなくなるのかなあと考えたときに、やっぱり3つめのalさんの作文でも書いてある通り、語り続けることが大切だなと思ってて。私、今回で3回めの参加になるんですけど、この大会が。1回め、2回めは、そんなにこの大会の話した内容とかを友達と

か親に話してなくて、差別をなくそう的な活動に参加してなかつたので。今回最後ということで、こういう大会がなくなるので、親とか友達にも、今回経験したことを話していこうと思いました。



小豆島中学校 3年 (bh) 2番めの作品の性の多様性についてで、受けとめるという言葉で、自分は性別について悩んでいて、学校のカウンセリングを行っています。自分の性別を初めてカミングアウトしました。その時にその先生が、「ああそうなんだ」と受けとめてくれて自分はうれしかったし、苦しいけど言ってよかったです、救われたなと思いました。もしこれからの人生でカミングアウトをされたら受け入れてほしいなと思いました。



徳島科学技術高校 3年 (bt) みんなの話を聞いてすごいなと思って。中学生でこんなにしゃべれるの、すごくない？まあ高校生もおるんやけど。是非ボクが今日だから言わしてほしい。そしてキミたちが将来の選択肢として思ってほしい。選挙に行こう。ホンマに。めっちゃ選挙に行こう。知ってるかなあ？参議院選挙ってやってるのよ。ボク18歳になっちゃったの。選挙権得ちゃったの、有権者だからさ。行かなきやと思つ

て、今日朝行つきました。5分も経たずに投票できちゃうんです。いろんなことが今話されてたけど、死刑制度であつたり、LGBTとは若干話は変わるんやけど、男女の平等ということで選択的夫婦別姓の話であつたり。今回の参議院選では特に経済の方、お米高いとかさ、あるやん。そういう話を重点的にやってるのよ。ていうのが今回の選挙なんやけど。たぶんキミたちが考へるよりすぐ18歳ってのはきます。きちゃつた。ホンマにすぐ来るから。そんなことないやんって思うやん。めっちゃすぐ来んねん。去年まで赤子だったのに。こういう視点で考へてもいいかもね。自分たちがこれから日本を作ってるんだぜ。これから未来を作ってるんだ。ただただ生きてるだけでも、ただただ学校通うだけでも、それでも優秀な未来の種よ。これからどんな未来を作るかっていうのも、若者に託されてるわけですよ、選挙権として。是非ね、18歳になつたらね、選挙行きましょう。まだ行ってない大人の方々、さすがにいらっしゃらないと思うんですけど、行きましょうね。というのが言いたかった。選挙行こうね。お邪魔しました。



名和中学校 2年 (au) 私はまず、1本めの無関心が奪うものっていう作文を聞いて、昔本で「好きの反対は無関心だ」と読んだことがあって、改めてこの作文を聞いて、嫌いって言われるのも確かに辛いけど、無関心で誰にも褒められたりとかあんまり良くないことだよって言われたりすることがないのも辛いことだと感じました。

2本めの LGBTQ +についてのお話を聞いて、確かに女の子らしくしなさいとか、男の子らしくしなさいとか、良くないけどいまだによく耳にする言葉なので、それを聞いたらちゃんと誰にでもいけないことだよって伝えたいし、自分もカミングアウトとかしにくい雰囲気ではなくて、しやすい雰囲気を作っていくみたいなと思いました。

3つめの語り続けるっていうことについて、いろんな人から小学校の時も中学校に入ってからもお話を聞くことがあるので、それを友達とか家族に伝えることがこれまであまりなかったので、もっと伝えていきたいし、今日のことも家族だけじゃなくて、友達にも語り続けることでまた何か変わるものかもしれない、教えていきたいなと思いました。



土庄中学校 2年 (bb) 私は LGBTQ の話を聞いて、自分も今まで男子やのにとか、女子やのにとか無意識に言ってしまって、相手を傷つけてしまったことがあるんじゃないかなと思いました。なので、普段でもそういう言葉を言わないように気をつけたいなと思いました。



城南高校 1年 (bs) 2つ話したいことがあって。1つめが3番めの al さんの作文について

てと、2つめが売られた喧嘩を返さないとなと思いまして。まあ喧嘩ではないんですけど、まあちょっとと言いたいことがあったので言おうと思います。

まず1つめの al さんの作文についてですけど、al さんが特に驚いてたのが本名を名乗れないっていうことだったと思うんですけど、本名を名乗れないってことについて。自分の本当の名を名乗れないって結構精神的にもきついものがあると思っていて。皆さんそれに名前があると思うんですけど、その名前には親御さんとか保護者の方とかのいろんな願いがこもっている名前だと思っているんです。私の名前は、bs あすかっていうんですけど、このあすかっていうのは、私2010年生まれなんんですけど、2009年に明日香村って分かります？奈良にあるんですけど、奈良の明日香村ってところで、何かの遺跡が発掘された感じで。父親はすごく地理が好きなので、それにあやかって名前つけようみたいな感じで、あすかって名前になったらしいんです。現在私は歴史がとても好きで、学芸員になろうとしていたり、歴史の教員になろうとしていたり考え中なので、すごくなんか運命じゃないけど、つながるものを感じるなと親子の血じゃないけど、そういうものを感じて不思議な気持ちになりました。というように、名前ってそれに思い入れというか、気持ちとかそういうものが込められてると思うんです。「豚がいた教室」っていうのを見たことがある方はいらっしゃいますでしょうか？そういう映画を。あれは、豚の P ちゃんっていう子がいて、6年何組だっけ、覚えてないですけど6年何組かで豚の P ちゃんて子を育てるっていう話になって、最終的にその子をお肉にするのか、それともそのまま育てていくのかっていう話なんんですけど。これを見たのが中1の頃で、その時に当時授業の時間が空いたから見せてもら

ったんですね。その授業は数学の時間で、ちょうど吉成先生に見せてもらったんですけど、吉成先生の言っていた言葉が結構心に刺さっていて、名前をつけることの大しさみたいなことを言っていたんですよ。当時の自分はそれについてあんまり詳しく考えていないで、名前なんてものは物とかに勝手につけられている名前だろうみたいな感じで思つたんです。自分の名前の由来とか、割と最近知つたんですけど、そういうのを聞いたりしたときに、名前ってそんな簡単にどうこう言えるものじやないというか、深い意味が込められていたりして、その名前に愛情があるみたいなことを思つた。ハンセン病の方々とかは本名を名乗れなくなつて、偽名を使うことになつて、非常に精神的にも苦しかつたのかなと思いました。

ていうのと、二つめが売られた喧嘩の話なんですけど、死刑制度についての話ですね。どんなに悪い犯罪者でも、どんな殺人鬼でも、どんな人でも必ず人権であると思うんですよ。どんなに落ちぶれたっていう言い方はあれですけど、どんな人間であつても。でも人の命を奪うって、とんでもなく悪いことであるのはわかつて、bvさんの言うことももちろんすごくよく分かるんですよ。被害者が浮かばれないとか、被害者の気持ちを考えると、すごく死刑制度っていうのは理解できるんですけど、これに関してはたぶん私と bvさんの考え方方が違うのかなって思つて。例えば無期懲役とかだと生きてるけど別に何もできない、ただ牢獄におるだけっていう状態じゃないですか。生きて償つてほしいと私は思つんですね。もし家族とかが命を奪われてしまつたら。でも、それを bvさんは死んで償つてほしいって思つてるっていうわけだから、たぶんこの話は平行線になるんじゃないかなと思います。実際平行線になつてる話でもありますし。

命にかかることなんで、たぶんなかなか死刑制度はなくならないんじやないかなって思つてますけれども、私は犯罪者の人権も大切にすべきだと思います。以上です。長々すいません。ありがとうございます。



森口 来週一泊研修がありますので、バスの中での語り合いと、夜の語り合いで二人とことんやってください。ホント語り合ってください。そういうことが語り合えるということが、ホンマにうれしいしね。感動するし、やっぱりみんなの言葉に元気をもらいます。

30年続いてきました。スタートはね、板野中学校なんです。ふれあいプラザってわかりますか。そこで始ましたんです。そのときに、香川の豊中中学校が参加してくれたのを思い出します。県外の学校に支えられてこの会がありました。本当に今回も徳島少ないんですけどね、小豆島の皆さんに支えられています。実は大山町のメンバーが、20人30人と来つて、支えられて、これが30年間続けてきました。

ホンマのことが言える。本当に心の底にあることが言える。自分のことが言える。こんなこと絶対言うことないと思ってたことが言える。私の話になりますが、私が22歳で教師になったときには。自分が生徒に部落出身っていうことを告げるっていうのは想像もしてなかつたんですね。結婚の時も結婚相手には。自分が部落の人間やいふことは言つ必要ないと思ってました。でも変わついくんですね。これが出会いの中で、学びの中でね。それは人と人との繋がりの

中で変わっていきます。やはりこの集会のすごさっていうのを本当に感じます。これはやっぱりね、吉成先生の熱と光です。30年間絶え間なく熱を送ってきた、当たり続けてきた彼の姿にやっぱり励まされております。来週小豆島の隣の豊島に行きます。これやってこんなこと実現するんだろうかってことが実現しそうなんですね。やっぱり教師の存在、教師の熱、教師の光、これが人権教育の全てです。



私は44年教師になって迎えとるんですけど、なんしに部落問題を語り続けてきたかっていうたら、部落問題を語れる教師を作るために教師をしてきたっていうのが、私の今の44年めの思いです。大学、京都で過ごしました。何度も部落差別にあいました。隠し続けました。ここで部落が分かつたら、ここで生活していくん。ここでおれんなっていう恐怖がずっとありました。その気持ちをね、誰かに伝えたいって、やっぱり当時思いました。もし部落問題を我がこととして語ってくれる先生と出会つとったら、私は絶対手紙を書いとったんだろうなと思います。でもずっと抱え込んで、親にも言えず、誰にも言えず。やっぱり押し殺して耐え続けてきた4年間です。でもその耐え続けてきた4年間が、やっぱりね、マグマになってエネルギーになって生きる力になってきます。

人間にはマイナスをプラスに変える力があります。それはやっぱり出会いです。毎年やっぱりこの7月の後半ね。中学生の思いに触れて、涙が出るし、体が熱くなるし、

力が湧いてきます。また1年間がんばれるって気持ちになります。2時間ぐらいしゃべりたい気持ちになるんですが、ホントにこれは、やっぱり皆さん力をもらう。ホンマの話ができる。語りはね、見事に学校が変わります。

私はね、母校に44年めに帰ったんです。教師になった1年め、22歳で勤務した。「峠」っていう資料がありますけど、結婚式の招待状の子がね、1年めに出会った子なんです。22歳で出会った子なんです。その子がもう57歳。学校の先生を今もしていますけどね。夫婦ともしていますけど。そういう場所に帰った。私はその学校、我が母校ね。母校の子どもたちのために、子どもたちを思いながら、「スダチの苗木」の資料を書いたんです。「峠」も書いたんです。これはやっぱり母校、吉野中学校の子どもたちのために書いたんです。まさかね、吉野中学校に帰るとは想像もしなかった。ラジオ番組があって、ラジオで吉野中学校って名前は出してませんよ。それを知ったる人たちがいろんな配慮をしたんでしょうね。勤務先が吉野中学校になりました。本当は松茂中学校にずっと残りたかったんやけど、吉野になりました。



出会ったときに中3を持ったんですけど紹介されました。1、2、3年と持ちあがつた担任がね、「2年のときに勉強した『スダチの苗木』の執筆者の先生が今年来てくれました。皆さんが聞いたラジオ。ラジオのあの先生が来てくれました」。吉野の子どもたちにとって遠くにあった部落が目の前に

きました。4月の参観授業から、自分の言葉で自分を語る。そのことが学校を一変します。子どもたちの関係が一変します。語り合いは、学校が変わります。関係を変えます。この場の空気がどんどんどんどん変わるようにつながりがどんどんできていきます。

あと後半、本当に自分のこと、自分の心にあること、家族のこと、仲間のこと、ぐっと秘めてきたもの、抱えとること。それを思いっきり発表して、30回を締め括ってください。これで終わるんですから。

実は私はね、今からどうしても出なアカンことがあって、マイクを持ったらアカンのやけど、30年ぶりに初めてマイクを自分から持ちました。そんなんで後半思いっきりやって。ということで、今から帰ります。ごめんなさいね。

来週エンドレスでバスの中、一泊研修ね、T-overの皆さん思い切り楽しみましょう。是非、T-overのホームページ見てくれたら参加できますから、多くの仲間が繋がってくれたらと思います。

もう一つ、8月22日にね。鳴門で人権フォーラムってあります。そのパネリストは板野中学校の中学生集会を始めたときの中学校3年生がパネリストです。皆さんの板野中学校の先輩です。パネリストです。中学生は参加できるけんね。来てね。30年前の先輩に喝を入れてください。皆さんの先輩が頑張っています。私たちは頑張ってますっていうような喝を入れてください。これはやはり先輩たちはうれしいと思います。



ホントに思いが語り合える、そういう関係です。btくんやっぱりホンマすごいね。ホントにね。bzホンマ良かったね。今日はずっと繋がっていってね。やっぱりこういう関係の中で広がっていきます。本当に感動を噛みしめて終わります。どうもありがとうございました。

あゆみ会(dp) 香川県三豊市の方から来ました、あゆみ会の人権を語る会をやっているdpといいます。意表をついて森口さん帰られるって言よるから。私、さっき出てきた豊中中学校で、1回めの語る会から子どもたちを10人ぐらい連れて、大人と子どもたちの保護者の人も連れて、豊中中学校の先生方と共に、訳分からんままに、森口先生と吉成先生が会する言うたら絶対に行こう思って來たんです。それから30年経ちました。今日最後やから。ここは外したらいかんやろということで前から今日にかけて香川からやって來たんです。ほんでもうどのタイミングで発言しようかね、中学生中心の語る会に私みたいな大人がね、しかも爺さんが、あんまりこうやってマイクを持って長い時間しゃべるのは、私はダメだと思うんです。ほんでも1回めと30回め、今日は最後だ。私も思いがあって、いったんどこのタイミングでしゃべろうかと思って、ずっと図んりよったんです。あと後半の部分で3つ意見発表のレポートあるんですけど、この中に部落差別を題材にしたレポートってあるんでしょうか。3人の方どないですか。題みよったら関係しそうなのないですか。そうですか。わかりました。ほなちょっと考えて、あとでちょこっとだけね、言わさせてもらおうと思います。今私たちも三豊市で語る会をやっています。それも徳島の1回めの会に参加したことがきっかけになって、今年で4回めにしかならんのですけど、ずっと続けていこうと思っていま

《人権を語り合う中学生交流集会+2025 全体会午後の部Ⅰ》

す。その根っこには部落差別があるんです。その部分をちょこっとだけ後で語らせていただこうと思っていたら森口先生が帰られるというので、慌てて手を挙げて今言わさせていただきました。すみません、皆さんの貴重な時間をとってしまいました。失礼します。



司会者(ap) まだまだ発表はあると思いますが、このあたりで午後の部Ⅰの話し合いを終了し、10分間の休憩をとろうと思います。10分後には元の席に戻ってきてください。

